# 令和７年度　神戸市立湊小学校　学校評価報告書

校園長名 仁ノ内　智　　記入者名 富田　祥子

| 神戸の教育が目指す人間像 | 教育ビジョン | 神戸が目指す　これからの学校の姿 |
|---|---|---|
| **心豊かに　たくましく生きる人間** | **自他を大切に 自ら考え 未来をつくる** | **人がつながり ともに創る みんなの学校** |

| 学校づくりの目標 | | |
|---|---|---|
| | **協働・共育** | ・規律と活力のある学校<br>・多方面から信頼される学校<br>・地域とつながり，地域と共に創る学校 |

| | 内容 | 重点的な取組み | 評点（４段階） | 特記事項（学校自己評価） | 関係者評価（学校自己評価に対する学校運営協議会の意見等） | 学校自己評価、関係者評価を踏まえた次年度の重点的な取組みの案 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 育てたい子供の姿 | 一つ上をめざす～心と力をあわせて～ | | | | | |
| | ○あきらめない子<br>「主体性」の表れとして、苦手なことにもチャレンジしようとする子 | ・自主学習（SUS)の推進<br>・特別活動の活性化<br>・体力アップにかかわる取り組みの充実<br>（放課後運動場遊び・校庭を活用した外遊び事業） | 3 | 各クラスの見本となるSUSをエントランスに定期的に掲示することで、子供たちの意欲向上につなげ、苦手な子供にとっては取り組み方のイメージをもつことができた。 | 子供たちにたくさんの選択肢が与えられている現状の中で、好きなことだけを選び、嫌いなことから逃げることにはつなげてほしくない。失敗することへの不安が高い子が多いと感じるので、失敗する経験も大事にしてほしい。 | ・自主学習（SUS)の推進<br>・特別活動の活性化<br>・体力アップにかかわる取り組みの充実<br>（放課後運動場遊び・校庭を活用した外遊び事業） |
| | ○おうえんする子<br>「協働性」の表れとして、友達と共に学び続けようとする子 | ・盲学校児童との共同学習<br>・つばめプロジェクト（幼小連携事業）の実施<br>・学校行事を通して、ともに活動する喜びや異学年への憧れの気持ちを育む | 3 | 盲学校との共同学習、つばめプロジェクトはそれぞれ２年目を迎えた。どちらも交流することで子供たちに新しい学びや達成感を与えている。新しく始めた「ペア集会」もよい異学年交流の場になった。 | 本校で長く続いている校外児童会（集団登校）については、今の時代に合わせて変えざるを得ない部分もわかるが変えてほしくない気持ちもある。何が課題なのか、解決できる方法はないか広く意見を聞いてほしい。 | ・盲学校児童との共同学習<br>・学校行事を通して、ともに活動する喜びや異学年への憧れの気持ちを育む<br>・校外児童会（集団登校）の見直し |
| | | | | | | |
| 必須テーマ | ①子供が主役のこれからの学び（授業改善） | ・基礎基本の確実な定着を図る<br>２年生パワーアップ教室（放課後学習）<br>・「個別最適な学び・協働的な学び」をテーマにした研修の充実<br>・読書活動の充実 | 3 | 新しい学びの形を実践するための研修体制を作り、提案や改善を繰り返しながら子供たちの学ぶ意欲の向上に努めた。しかし、今年度の学力・学習状況調査も学力の定着については課題が多かった。さらなる検証が必要である。 | 自由進度学習や協働学習など新しい学び方についても話を聞いたが、やはり「読み書きそろばん」と言われた基礎基本はどのような時代になっても大切ではないか。最近、小学生の市民図書室利用者が増えているのはよい傾向だ。 | ・基礎基本の確実な定着を図る<br>・「個別最適な学び・協働的な学び」を取り入れた授業 |
| | ②地域とともにつくる<br>開かれた学校（CSの充実） | ・保護者への授業支援の依頼<br>・地域人材の発掘<br>・企業や関係機関と連携した出前授業 | 3 | 夏季の水泳学習の見守りや校外学習の付き添いなど保護者の力を借りることで安心・安全に行事を実施することができた。保護者からも教育活動に協力したいとの有難い声をいただいたので、さらに拡大していきたい。 | 地域行事でも子供の参加者が少ないことがある。その場合は、出前授業という形で交流することで、地域と学校がつながり、地域で子供を育てることになる。地域人材をもっと活用してほしい。 | ・保護者への授業支援の依頼<br>・地域人材の発掘<br>・企業や関係機関と連携した出前授業 |
| | ③人材育成 or 業務改革 | ・教科担任制の推進<br>・同僚性を高めるための雰囲気づくり<br>・定期的なメンタルヘルスチェックの実施 | 3 | ４～６年生で教科担任制を実施し、１～３年生では一部教科担任制やローテーション道徳を取り入れたことで学年全体を見守る一体感が生まれた。また、教員の専門性や得意分野を生かし、教員同士が学ぶOJT研修も定期的に実施した。 | 今年度は先生方の入れ替わりが多く、不安を感じることもあった。その都度学年に応じた体制づくりを考えてもらったが、先生方の負担が大きいのではないか。家庭のしつけと学校教育の線引きが難しくなっているように思う。 | ・教科担任制やチーム担任制の推進<br>・同僚性を高めるための雰囲気づくり |
| | ④いじめ防止対策に関する取組み | ・学期ごとにいじめアンケートを実施し、いじめの早期発見に努める<br>・いじめ未然防止プログラム授業の実施<br>・SNSトラブルへの啓発や情報モラル授業の実施 | 2 | SNSや携帯電話を利用したトラブルが増加している。子供たちが事件に巻き込まれず、自分の身を自分で守ることができるように使い方やマナーについて啓発を続けた。この点については家庭との連携が必須であるので、発信を続けたい。 | 携帯電話を持たない、SNSを利用しないということはこれからを生きていく子供には考えにくい状況である。スマホの使用は止めることができないし、子供たちはすぐに抜け道を見つけていく。やはり家庭でのルール作りが基本だと考える。 | ・学期ごとにいじめアンケートを実施し、いじめの早期発見に努める<br>・SNSトラブルへの啓発や情報モラル授業の実施<br>・学級、学年を超えた指導体制づくり |
| | ⑤不登校支援の取組み | ・サポートルーム（みんなとルーム）の充実<br>・教育相談を充実させ、個に応じた対応に努める。<br>・SCやSSWとの連携を強化 | 3 | 本校の不登校者数は年々増加しており、学校課題の一つである。その中で「みんなとルーム」は、登校しづらい子にとって安心できる居場所になっている。今後の取組の中で、将来を見据え、教室や社会とどのようにつなげていくかが課題である。 | 幼稚園や保育所では行き渋りがあっても不登園は起こりにくい。小学校に入学してから増える要因は何であるのかが大事ではないか。友達関係のつまづき、学習不振、など子供たちの要因を丁寧に分析してほしい。 | ・サポートルーム（みんなとルーム）の充実<br>・教育相談を充実させ、個に応じた対応に努める<br>・見通しをもった指導と居場所づくり |